



第7回脱炭素WG資料

持続可能性運営計画第二版 気候変動パートについて

総務局 持続可能性部

本日の内容について

- 運営計画第二版 気候変動パートの主要項目についての説明、内容についての議論

【ご確認】

本運営計画気候変動パートは、全関係者間の合意を得たものではないため、今後変更となる可能性もございます。

運営計画第二版 全体の組み立て

○第二版の位置づけ（第一版との整理）

○1964年大会からの歩み等

○大会における持続可能性配慮の基本的な考え方

- 基本の方針（世界の動きを見据えた大会の方向性）
- 持続可能な開発目標（SDGs）の活用と主要5テーマの取組
- 計画の適用範囲
- ISO20121規格に則した持続可能性マネジメントシステム
- モニタリング体制
- 計画の実現に向けたツール（調達コード、環境アセスメント）の活用

○主要テーマごとの目標とそれに向けた施策

○実施主体別の行動計画・進捗状況

- 会場整備関係の取組
- 実施主体（FA）別の取組

運営計画第二版 気候変動パートの主要項目

1. 気候変動のゴールについて
2. 取組の優先順位
3. カーボンフットプリントの把握
4. 気候変動分野の目標と指標と施策
5. カーボンマネジメント体制
6. 適応策について
7. 参加・協働、情報発信について

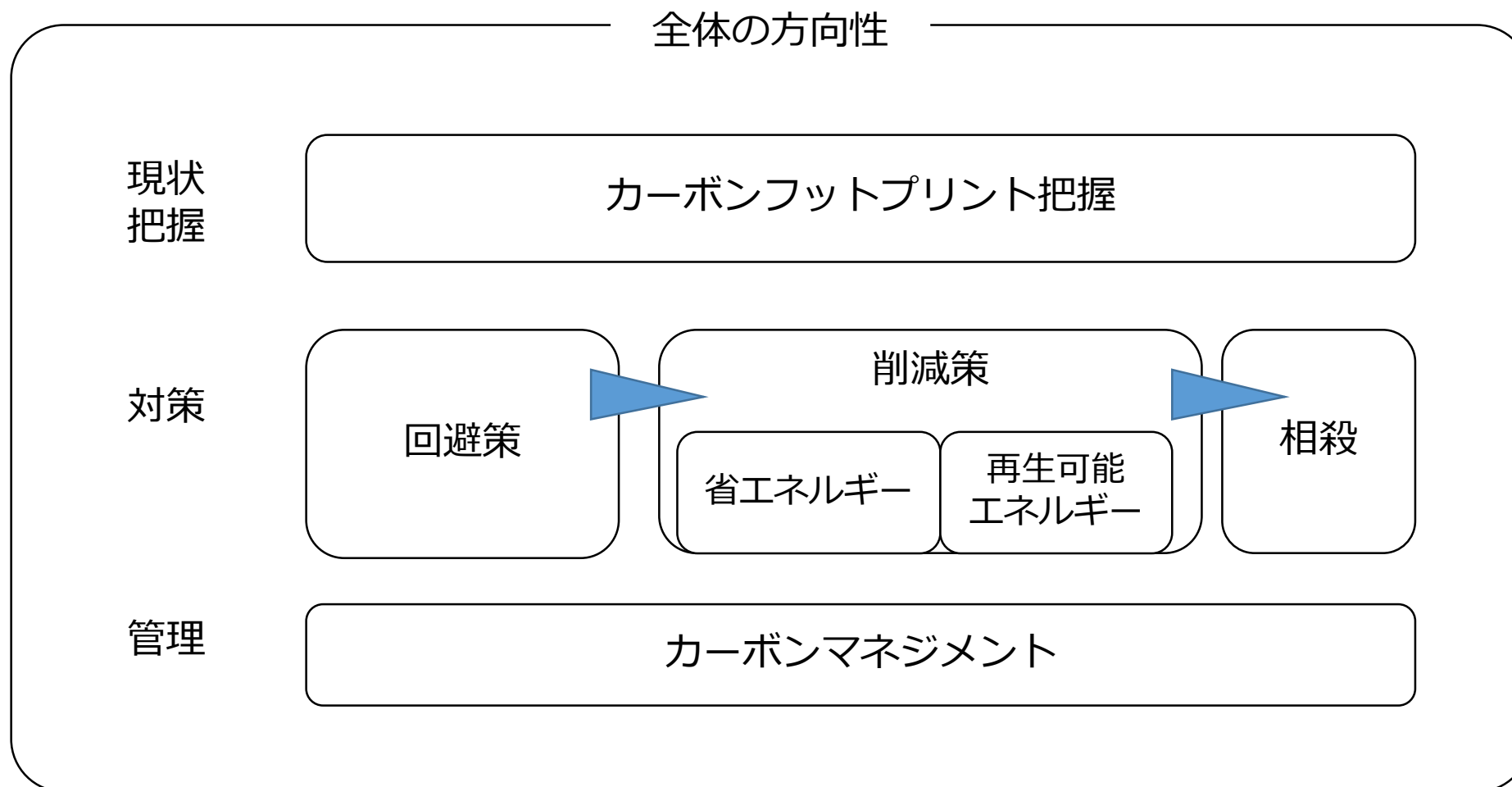
1. 気候変動のゴールについて

Zero Carbon

〈これまでご同意いただいた事項〉
ZERO CARBON を目指すこと

➡ゴールのワードについてご議論頂きたい

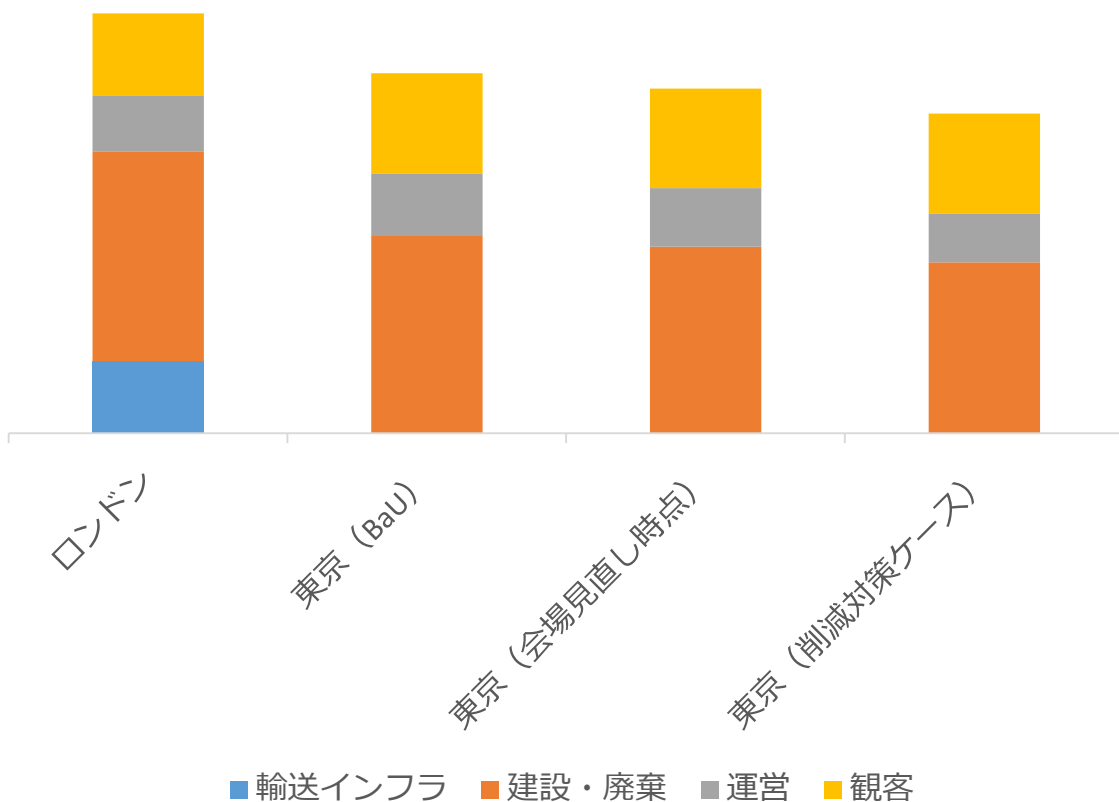
2. 取組みの全体像と優先順位



➡取組の全体像と優先順位についての上記イメージについてご議論頂きたい

3. カーボンフットプリントの把握

カーボンフットプリント算定の考え方



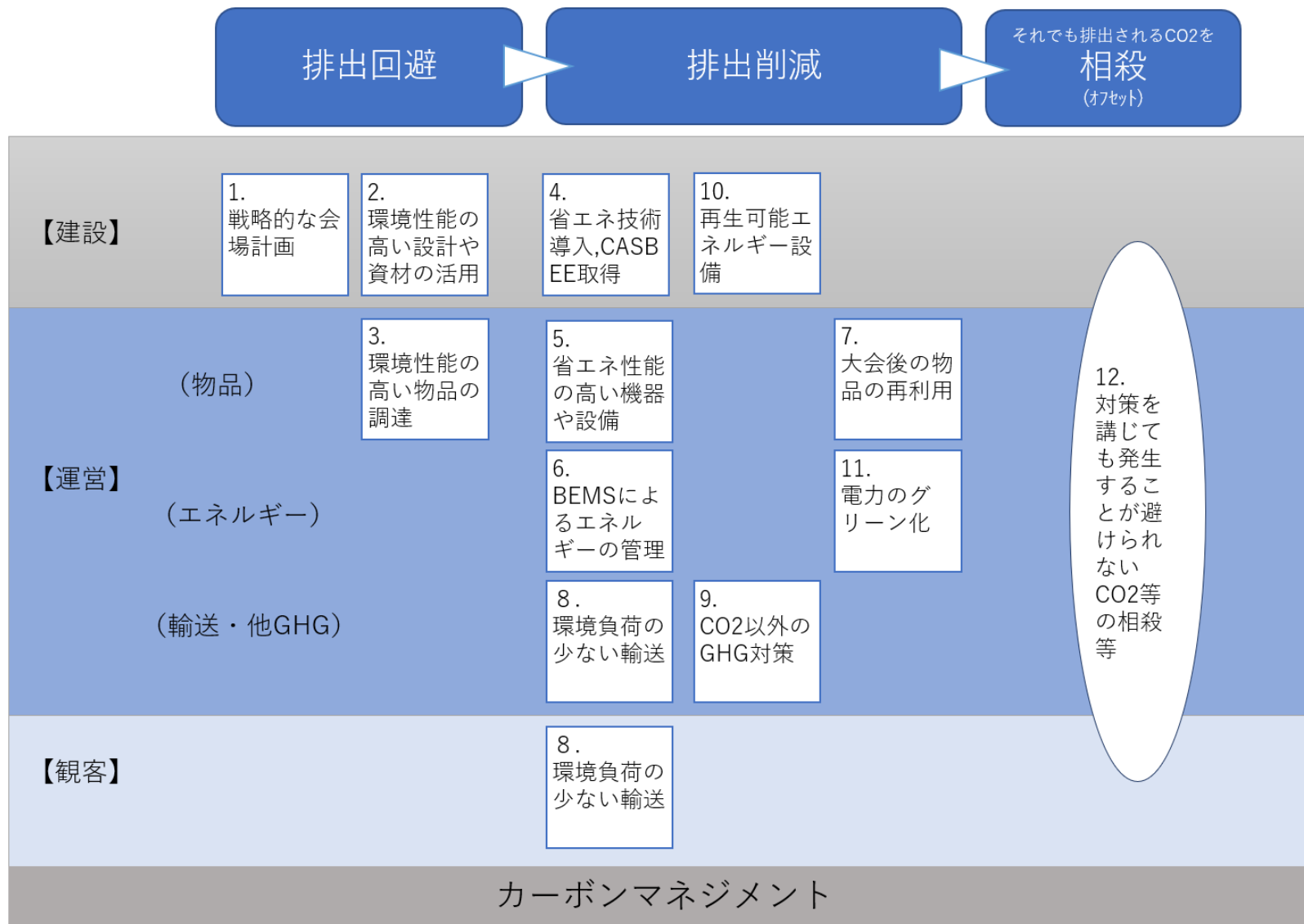
東京大会の各時点のフットプリント概要

BaU	会場見直し時点	削減対策ケース
<ul style="list-style-type: none"> BaUは立候補時点に算定した数値に新規追加競技分を追加した数値 	<ul style="list-style-type: none"> 会場見直し時点はBaUの数値に会場見直しによるCO2削減量を反映した数値 	<ul style="list-style-type: none"> 削減対策ケースは、会場見直し時点の数値に施策によるCO2削減量を反映した数値

4. 気候変動分野の目標と指標案<一覧>

目標(Target)		主要な指標(Indicator)	対策効果
排出回避	[建設] 1. 既存施設や公共交通網を最大限活用する戦略的な会場計画 2. 施設等における環境性能の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存施設活用割合 ● パッシブデザイン導入：導入施設 ● 再生材の活用：活用施設における実績 ● 環境配慮資材の活用：活用実績 	○tCO2
	[運営] 3. 調達コードに沿った環境性能の高い物品の調達	<ul style="list-style-type: none"> ● 調達コードに沿った物品調達 	-
排出削減	[建設] 4. 省エネルギー技術を積極的に導入した施設の建築	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京都建築物環境計画書制度の評価：段階3を目指す施設 ● CASBEE：CASBEE Sランク等を目指す施設 	○tCO2
	[運営] 5. 省エネルギー性能の高い設備や機器等の導入促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 省エネ性能の高い機器導入実績 	○tCO2
	6. 施設運営におけるエネルギー管理、恒久施設におけるBEMSの活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 事務施設における照明、室温の適正化状況 ● BEMS：導入施設 	
	7. 物品の循環型利用によるCO2負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 調達物品の再利用・再生利用率(資源管理の目標と連動) 	
	8. 環境負荷の少ない輸送の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 大会車両の平均CO2排出量原単位(gCO2/km) ● FCV 利用台数 	
	[観客] 8. 環境負荷の少ない輸送の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通機関利用状況(広報実績等) 	-
	9. CO2以外の温室効果ガス対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然冷媒等の利用による代替フロン削減の実績 	
	再生可能エネルギー	[建設] 10. 恒久施設への再生可能エネルギー設備の導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 太陽光：導入施設及び導入した設備容量(kW) ● 太陽熱：導入施設及び導入した設備容量(kW) ● 地中熱：導入施設及び導入した設備容量(MJ)
	[運営] 11. 再生可能エネルギーによる運営(電力等のグリーン化等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 運営時の電力のグリーン化率 	○tCO2
相殺(オフセット等)	12. 対策を講じても発生することが避けられないCO2等の相殺等	<ul style="list-style-type: none"> ● 制度に基づいたクレジットによるオフセット量 ● 脱炭素化につながる、様々な主体の参画・連携による削減活動の推進実績 	-

4. 気候変動分野の目標と指標案 <各目標の位置づけ>



➡目標の位置づけを図示、網羅されているかご議論頂きたい

4. 気候変動分野の目標と指標案 <排出回避における目標 1～3 >

	目標(Target)	主要な指標(Indicator)	対策効果
排出回避	[建設] 1. 既存施設や公共交通網を最大限活用する戦略的な会場計画 2. 施設等における環境性能の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存施設活用割合 ● パッシブデザイン導入：導入施設 ● 再生材の活用：活用施設における実績 ● 環境配慮資材の活用：活用実績 	〇〇t-CO2
	[運営] 3. 調達コードに沿った環境性能の高い物品の調達	<ul style="list-style-type: none"> ● 調達コードに沿った物品調達 	-

➡目標に対する指標について、整合性をご議論頂きたい

4. 気候変動分野の目標と指標案 <排出削減における目標4～9>

		目標(Target)	主要な指標(Indicator)	対策効果
排出削減	削減策	[建設] 4. 省エネルギー技術を積極的に導入した施設の建築	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京都建築物環境計画書制度の評価：段階3を目指す施設 ● CASBEE：CASBEE Sランク等を目指す施設 	〇〇t-CO2
		[運営] 5. 省エネルギー性能の高い設備や機器等の導入促進 6. 施設運営におけるエネルギー管理、恒久施設におけるBEMSの活用 7. 物品の循環型利用によるCO2負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 省エネ性能の高い機器導入実績 ● 事務施設における照明、室温の適正化状況 ● BEMS：導入施設 ● 調達物品の再利用・再生利用率(資源管理の目標と連動) 	〇〇t-CO2
		8. 環境負荷の少ない輸送の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 大会車両の平均CO2排出量原単位(gCO2/km) ● FCV 利用台数 	
		9. CO2以外の温室効果ガス対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然冷媒等の利用による代替フロン削減の実績 	
		[観客] 8. 環境負荷の少ない輸送の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通機関利用状況(広報実績等) 	-

4. 気候変動分野の目標と指標案 <排出削減における目標10~11>

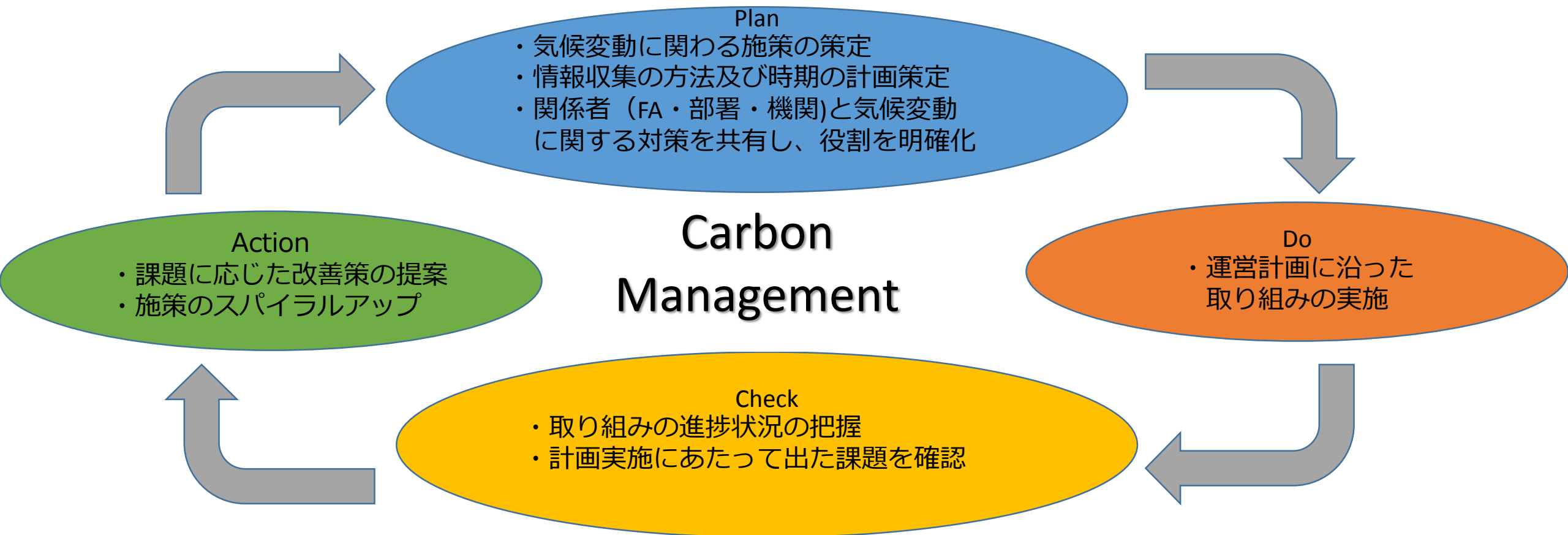
目標(Target)		主要な指標(Indicator)	対策効果
排出削減	再生可能エネルギー		
	[建設] 10.恒久施設への再生可能エネルギー設備の導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 太陽光：導入施設及び導入した設備容量(kW) ● 太陽熱：導入施設及び導入した設備容量(kW) ● 地中熱：導入施設及び導入した設備容量(MJ) 	-
	[運営] 11.再生可能エネルギーによる運営 (電力等のグリーン化等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 運営時の電力のグリーン化率 	〇〇t-CO2

4. 気候変動分野の目標と指標案〈カーボンオフセット 目標12〉

目標(Target)	主要な指標(Indicator)
<p>相殺</p> <p>12.対策を講じても発生することが避けられないCO2等の相殺等</p>	<ul style="list-style-type: none">● 制度に基づいたクレジットによるオフセット量● 脱炭素化につながる、様々な主体の参画・連携による削減活動の推進実績

5. カーボンマネジメント体制

- ISO20121に沿って気候変動に関するカーボンマネジメント体制を整備する。
- 主体毎に役割分担を明確化し、気候変動対策の実践状況を確認・改善する。



➡上記のマネジメント体制についての在り方をご議論いただきたい

6. 適応策

暑さ対策

ハード面

- 建築物の断熱、緑陰の確保等の状況
- 日除けテントの設置、飲料水の提供等の状況

ソフト面

- 情報発信による注意喚起等の状況
- 熱中症予防情報の提供

7. 参加・協働、情報発信について

- 脱炭素社会の構築へ向けた国民運動の推進により、気候変動問題に取り組むムーブメントを起こす
 - 新規恒久施設におけるエネルギー使用量やCO2排出量の表示システムなど、見える化の検討を行い、気候変動問題の自分事化を図る
 - 環境イベント等を通じて大会の環境技術を情報発信する
 - 国民参加によるカーボンオフセットの実施
 - 気候変動対策に関する活動/ムーブメントの創造



TOKYO 2020



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES



Appendix (ご参考) これまで同意された項目

日時	項目	内容
第五回低炭素WG (2017年7月)	カーボンマネジメント	個々の具体的なカーボン排出項目について誰が担当するのか、組織委員会を中心に検討する(資料のマネジメント表の作成を進める)
	CFPのバウンダリ	輸送インフラが整っていることは東京のメリットなので明記してもいい。輸送インフラが無いことで東京はロンドンよりCFPが低くなる
	CFPの算定方法とBAU	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は延床面積で建設のCFPを算定しているが、シンボライズされる建物については延床から資材量に置き換えて算定を行う。 ・競技施設の追加によって発生したCFPについては、BAUにも乗せる
	デシジョンツリーの項目	<ul style="list-style-type: none"> ・排出量は大きいですが、算定不能に分類した項目の整理 ・ステークホルダーの関心がないと判断して落とした項目の整理 ・組織委員会が考えている、オリパラ大会の観客の定義を整理
	排出源とオフセットの関係	組織委員会が絡む主たる排出に対してはクリーンなクレジットを充て、その他の観客の食事や宿泊については、国民が省エネや再エネの行動に取り組むきっかけになるようなものを緩やかに入れることに同意
	クレジットに関するポリシー策定	オフセットに使用するクレジットは、排出源ごとに充てるクレジットの基準を明確にしていく
第六回低炭素WG (2017年9月)	東京大会における気候変動対策の目標	東京大会の気候変動対策のゴールとして、“Zero Carbon”とする
	脱炭素社会に向けた、自治体や地域との意見交換	日本をゼロカーボン社会にしていくために自治体や地域の取り組みをどのように推進していくか協議するための意見交換を行う機会の設定



第 1 1 回資源管理WG資料
個別項目の目標指標の考え方について

2017年11月29日
大会準備運営第一局 持続可能性部

資源管理における目標群(案)

	目標の目的・視点		目標候補	
	インプット側	アウトプット側	インプット側 (例)	アウトプット側 (例)
リデュース	リデュース、資源の無駄の最少化		1. 食品ロス削減（食品廃棄物の発生抑制） 2. 容器包装等削減 3. 調達物品のレンタル活用による新規物品製造削減	
リユース	後利用に配慮した調達 リユース品の調達	使用済み物品等の リユース	3. 調達物品の再使用(レンタル等含む)・再生利用	
リサイクル	リサイクルしやすい 製品の調達 リサイクル品の調達	使用済み物品等の リサイクル	4. 再生材の利用 5. 入賞メダルへの再生 金属利用	7. 運営時廃棄物の再使 用・再生利用 8. 食品廃棄物の再生利用 9. 建設廃棄物の再使用・ 再生利用
地球環境 保全の 側面	持続可能な資源管理	環境中への排出の最少 化	6. 再生可能資源の持続可 能な利用 (木材等)	10. 環境中への排出の削減 (埋立処分量、廃棄物由 来CO2等の削減)

今回は、前回提示できなかった上記項目の目標指標のあり方を中心に
検討いただきたい

「1. 食品ロス削減（食品廃棄物の発生抑制）」の関連情報

区分		指標
大会 関連	ロンドン大会の目標	数値目標は存在せず、「London2012 Food vision」で以下のような目標を掲げた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ポーションサイズの適正化 ・食材の在庫管理 ・大会時の食品選択に関する情報を事前に顧客に提供する ・オンライン注文システムの実用化
	ロンドン大会の実績	十分な情報が公表されていない（精査中）
	リオ大会の目標・実績	ポーションサイズを複数用意し、大盛・小盛メニューを設定した。
	東京大会運営計画 第1版での記載	そもそも食品ロスの発生を抑制することが重要であるが、発生してしまった食品廃棄物については、資源化を目指す。
関連するSDGs		12-3.2030年までに、小売り・消費段階での1人あたりの食料の廃棄を半減し、製造・供給チェーン全体での食品ロスを削減する。
東京都施策		「東京都資源循環・廃棄物処理計画」にて「食品ロスをはじめとする資源ロスの削減を進める」と明記。 外食事業者と連携した、小盛り・少人数用メニュー等の食べきりを推奨する取組を支援。
他の事例		外食産業における食品廃棄物等の再生利用等実施率統計（平成27年度）：23% ※2019年度の目標値：50%

「1. 食品ロス削減（食品廃棄物の発生抑制）」におけるTarget等の考え方

Target（目標案）	Indicator（指標案）	
<p>・食品ロスの削減</p>	<p>取組み (定性)</p>	<p>以下の取組みの実施状況により評価を行う</p> <p><提供時></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポーションコントロールなどにより、食べきれる量を考慮して料理の給仕量を調節 <p><飲食提供受託事業者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食提供対象者数、競技日程等を用い、ICT技術も活用して飲食提供数の予測に最大限取り組む必要がある(要請) <p><計測></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品廃棄物の計量と見える化に可能な限り取り組む <p><選手・大会関係者・観客等への意識啓発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品廃棄物抑制の重要性について意識啓発を行う <p>⇒大会後の国内外の食品ロス削減の取組みの参考につなげる</p> <p>※組織委員会が直接、食を提供する場所において実施を検討する (まずは選手村メインダイニング等)</p> <p>※飲食提供の詳細は、受託事業者の決定を経て固まる事項であるため、受託事業者と連携して食品ロス削減の取組みの詳細を検討する</p> <p>※定量的な目標値の設定は難しいため、食品ロス削減に資する取組みを進め、結果を測定していくこととしてはどうか</p>

「2. 容器包装等削減」 関連情報整理

区分		指標
大会 関連	ロンドン大会の目標	特に目標は掲げていない。
	ロンドン大会の実績	“LOCOG packaging Guidelines” を作成し、3Rの観点から容器包装についてのガイドラインを作成している。
	リオ大会の目標・実績	十分な情報が公表されていない（精査中）
	東京大会運営計画 第1版での記載	スポンサー・ライセンサー・サプライヤー・場内売場などと連携し、梱包材や包装材、使い捨て容器、レジ袋などの使用を最小化する。
関連するSDGs		12-5.2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再利用及び再生利用（recycling and reuse）により、廃棄物の発生を大幅に削減する。 12-8. 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。
東京都施策		東京都2020年に向けた実行プラン「2020年度までにレジ袋無償配布ゼロを目指す」 「身近なところから使い捨て型ライフスタイルを見直すため、現状では多くが使い捨てされているレジ袋の使用量を削減する取組が必要である。」
他の事例		愛・地球博の「開催時における環境配慮行動計画」において、「物品等の購入・搬入に当たっては、事業者に対し通い箱や簡易包装の使用及び梱包材の持ち帰りを指導し、ごみの削減を図る」と記載。

「2. 容器包装等削減」におけるTarget等の考え方

Target (目標案)	Indicator (指標案)	
<p>・ 容器包装廃棄物の発生抑制・削減</p>	<p>取組み (定性)</p>	<p><調達時・提供時></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポンサー・ライセンサー・サプライヤー・場内売場と連携し、容器包装等の使用量を可能な限り削減(梱包材・包装材、使い捨て容器、レジ袋など) <p><観客・大会関係者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 容器包装等の削減に向けた呼びかけ <p><測定(結果系)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大会における容器包装廃棄物の発生量等についてのデータを収集し、今後の大会に向けてのレガシーとする <p>※定量的な目標値の設定は難しいため、容器包装削減に資する取組みを進め、結果を測定していくこととしてはどうか</p>

「4. 再生材の利用」 関連情報整理

区分		指標
大会 関連	ロンドン大会の目標	会場とオリンピックパークの建設全体で、25%（重量ベース）はリサイクル・補助骨材を使用する
	ロンドン大会の実績	42%を達成した（ただし、クレー粘土掘削の現場から出てきた捨石が主に使用されており、東京近郊ではほぼ出てこない再生材である）
	リオ大会の目標・実績	公表されている情報なし（精査中）
	東京大会運営計画 第1版での記載	工事現場における再使用素材の活用を可能な限り行う。
関連するSDGs		9-4.2030年までに、資源利用効率の上昇とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。
東京都施策		東京都建設リサイクル推進計画：再生砕石の利用率目標96%（H32年度）
他の事例		愛・地球博：目標に、リサイクル材の利用促進を掲げた。 結果的に、会場の周遊回廊に廃プラスチック混合材を活用する、パビリオンの外壁舗装に下水処理汚泥や焼却灰由来素材が使用されるなどした。 （数値目標・実績はなし）

「4. 再生材の利用」におけるTarget等の考え方

Target (目標案)	Indicator (指標案)	
<ul style="list-style-type: none"> 再生材の利用 	取組み (定性)	<p><施設></p> <ul style="list-style-type: none"> 施設建設における、再生材の利用の各取組みを指標とする(再生砕石等) 量的な把握に努め、実績値を示す <p><調達物品></p> <ul style="list-style-type: none"> 物品調達の優先順位の考え方に基づき、再生材の利用の各取組みを指標とする 量的な把握に努め、計画・実績値を示す <p>※定量的な目標値の設定は難しいため、再生材利用の取組みを進め、活用の状況を測定していくことしたい</p>

「5. 入賞メダルへの再生金属利用」 関連情報整理

区分		指標
大会 関連	ロンドン大会の目標	メダル関係では特になし
	ロンドン大会の実績	-
	リオ大会の目標・実績	目標としては特に設定していない 実績として、一部のメダルは再生金属から作られたという情報がある（精査中）
	東京大会運営計画 第1版での記載	リサイクルの例として「都市鉱山から産出・生産されるなどした環境負荷のより少ない入賞メダルの製作」を検討すると掲げている。
関連するSDGs		12-2.2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。 12-8. 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。
東京都施策		東京都資源循環・廃棄物処理計画p27「都市鉱山を最大限に活用するため、都民の排出機会の多様化を図るなど、更なる回収機会の増加や適正なリサイクルの確保を支援していく」
他の事例		2010年バンクーバーオリンピックにおいては、一部、不要になった電化製品から取られた金属を用いてメダルを作ったという事例がある（精査中）


「5. 入賞メダルへの再生金属利用」におけるTarget等の考え方

Target (目標案)	Indicator (指標案)	
<ul style="list-style-type: none"> 入賞メダルへの再生金属利用 	取組み (定性/定量)	<ul style="list-style-type: none"> 「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」における指標を適用する <div data-bbox="1116 368 2397 1260" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;">  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="1225 572 1582 832" style="border: 1px solid orange; padding: 5px; text-align: center;"> <p>みんなの想いが集まって</p>  <p>携帯電話やパソコン等 小型家電を全国各地で回収</p> </div> <div data-bbox="1595 572 1951 832" style="border: 1px solid orange; padding: 5px; text-align: center;"> <p>東京2020メダリストへ</p>  <p>小型家電から抽出した リサイクル金属でメダルを製作</p> </div> <div data-bbox="1964 572 2321 832" style="border: 1px solid orange; padding: 5px; text-align: center;"> <p>資源をより活かす社会に</p>  <p>資源の有効活用をより重視する さらに持続可能な社会へ</p> </div> </div> <p style="margin-top: 20px;">オリンピック・パラリンピック史上初の取り組み！リサイクル率100%を目指します！</p> <p>このプロジェクトは、日本全国の国民が参加してメダル製作を行う国民参画形式により実施します。また、リサイクル金属をメダル製作に活用することで環境に配慮し、日本のテクノロジー技術駆使することで、金の精錬におけるリサイクル率100%を目指します。過去にもメダルの原材料の一部としてリサイクル金属が含まれた例はありましたが、国民が参画し、メダル製作を目的に小型家電の回収を行い、集まったものから抽出された金属でメダルの製作を行うプロジェクトは、オリンピック・パラリンピック史上、東京2020大会が初めてとなります。</p> <p>東京2020組織委員会では、持続可能な社会を実現、レガシーを残すことにつなげるため、プロジェクト参加事業者である株式会社NTTドコモ、一般財団法人日本環境衛生センター、環境省、東京都と一緒に、積極的に推進してまいります。</p> </div>

「6. 再生可能資源の持続可能な利用（木材等）」 関連情報整理

区分		指標
大会 関連	ロンドン大会の目標	なし
	ロンドン大会の実績	公表されている情報なし（精査中）
	リオ大会の目標・実績	なし
	東京大会運営計画 第1版での記載	可能な限り、仮施設は大会終了後も資材等が再利用可能な構造とする。
関連するSDGs		12-2.2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。
東京都施策		「「持続可能な資源利用」に向けた取組方針」
他の事例		愛・地球博：各国のパビリオンで、各国産の再生可能素材（樹木・粘土・石膏など）を使った建設が行われた。 分かりやすい例として、長久手日本館の外壁（竹ケージ）や瀬戸日本館の外装パネル（国産カラマツ材）など

「6. 再生可能資源の持続可能な利用（木材等）」におけるTarget等の考え方

Target（目標案）	Indicator（指標案）	
<ul style="list-style-type: none"> 再生可能資源の持続可能な利用（木材等） 	取組み (定性)	<ul style="list-style-type: none"> 施設等における、再生可能資源の持続可能な利用(木材等)の各取組みを指標とする <p>例.日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～</p> 

「9. 建設廃棄物の再使用・再生利用」 関連情報整理

区分		指標
大会 関連	ロンドン大会の目標	建設廃棄物の90%を再使用・リサイクル・回収する
	ロンドン大会の実績	99%を達成した
	リオ大会の目標・実績	全ての建設廃棄物に対して統一した管理計画を調整・実行し、適切な管理と最終処分を確実に行う。（数値目標なし） 実績については、公表されている情報なし（精査中）
	東京大会運営計画 第1版での記載	仮施設は大会終了後も資材等が再利用可能な構造とする。 仮施設の資材等を可能な限り再利用する。
関連するSDGs		12-5.2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再使用及び再生利用（recycling and reuse）により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
東京都施策		東京都建設リサイクル推進計画：建設廃棄物の再生利用率目標（H32年度）98%（含む民間工事）99%（都関連工事のみ） 実績（H24年度）：96%（含む民間工事）98%（都関連工事のみ）
他の事例		愛・地球博：目標95%（コンクリート・アスファルト・建設発生木材のそれぞれ） 実績：コンクリート98%、アスファルト96%、建設発生木材78%

「9. 建設廃棄物の再使用・再生利用」におけるTarget等の考え方

Target (目標案)	Indicator (指標案)	
<p>・建設廃棄物の再使用・再生利用</p>	<p>定量指標</p>	<p>・新設会場における建設廃棄物の再資源化・縮減率 ・新設会場における建設発生土の有効利用率 ※指標の詳細は、行政での定義にしたがう</p> <p><参考> 建設廃棄物の再資源化・縮減率(東京都)</p> $\frac{\text{再使用量} + \text{再生利用量} + \text{熱回収量} + \text{焼却による減量化量} + \text{脱水等の減量化量}}{\text{発生した建設廃棄物の重量}}$ <p>建設発生土の有効利用率(東京都)</p> $\frac{\text{現場内利用量} + \text{工事間利用量} + \text{適正に盛土された採石場跡地復旧等利用量}}{\text{建設発生土発生量}}$

「10.環境中への排出の削減(埋立処分量、廃棄物由来CO2等の削減)」

関連情報整理

区分	指標	
大会 関連	ロンドン大会の目標	大会期間中の埋立地直送廃棄物をゼロにする
	ロンドン大会の実績	運営時廃棄物の直接埋立地行きをゼロにした
	リオ大会の目標・実績	埋立されるゴミの量を減らすため、有機性ゴミを堆肥化する（数値目標なし） 実績は、公表されている情報なし（精査中）
	東京大会運営計画 第1版での記載	再使用・再生利用ができない廃棄物については、熱回収・エネルギー回収を行うなど資源の有効活用を図る。
関連するSDGs	12-5.2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再使用及び再生利用（recycling and reuse）により、廃棄物の発生を大幅に削減する。	
東京都施策	東京都資源循環・廃棄物処理計画：2020年度の最終処分量3.7%（一般廃棄物・産業廃棄物合計）	
他の事例	-	

「10.環境中への排出の削減(埋立処分量、廃棄物由来CO2等の削減)」におけるTarget等の考え方

Target (目標案)	Indicator (指標案)	
<p>環境中への排出の削減 (埋立処分量、廃棄物由来CO2等の削減)</p>	<p>取組み (定性/定量)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・埋立処分量を把握する (建設・調達物品・運営時廃棄物) ・廃棄物由来のCO2排出量を把握する (詳細は脱炭素WGと連携) <p>※目標1-9の目標への取組み等により、埋立処分量・廃棄物由来CO2の排出量は、削減が可能</p>



TOKYO 2020



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES



「3. 調達物品の再使用（レンタル等含む）・再生利用率」の関連情報

(参考) 第10回資源管理WG
資料（一部修正）

区分		指標
大会 関連	ロンドン大会の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の設営及び撤去作業から生じる資材の90%以上を再使用または再資源化できるよう妥当な策を講じる ・Temporary overlayについて、資材と製品の80%がレンタル市場やオフサイトの恒久施設でリユースされる ・運営から発生する廃棄物リユース・リサイクル率70%（運営時廃棄物を含む）
	ロンドン大会の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の設営・撤去に伴う廃棄物(什器、テクノロジー用品、ルックなどを含む)：99%以上リユース・リサイクル ・Temporary overlay(Commodity)：86%がレンタルされた。 ・運営から発生する廃棄物リユース・リサイクル率62%（運営時廃棄物を含む）
	リオ大会の目標・実績	持続可能性に関する指針を物品購入時の要件に組み込む。（数値目標なし） 実績は、公表されている情報なし
	東京大会運営計画 第1版での記載	<ul style="list-style-type: none"> ・物品調達等におけるリース・レンタル品の活用で、リユースの推進を図る。 ・東京2020大会で活用した物品等で記念品となり得るものについては、できる限り使用後に寄付、展示等で活用する
関連するSDGs		12-2.2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。
東京都施策		「「持続可能な資源利用」に向けた取組方針」
他の事例		愛・地球博：目標に、可能なものはリース・レンタル用品を導入すると記載。パビリオンの建築資材にリース材を活用したり、管理施設やトイレなどをリース・レンタル品にするなどした。

「3. 調達物品の再使用・再生利用」におけるTarget等の考え方

Target (目標案)	Indicator (指標案)		
調達物品の再使用・再生利用	定量指標	計算法	<ul style="list-style-type: none"> 調達物品の再使用・再生利用率 ※物品調達時の重量ベースで計算する。 $\left[\frac{\text{再使用・再生利用された調達物品の重量}}{\text{調達物品の重量}} \right]$
		分母 (バウンダリ)	組織委が調達する物品 例：仮設設備 (プレハブ・テント等) 什器類 (机・いす等) セキュリティ備品 (フェンス等) オペレーション備品 (競技用備品等)
		分子	再使用・再生利用される物品 <ul style="list-style-type: none"> 再使用：リース・レンタル、買戻し特約 売却、贈与、再使用 など 修理・加工後に再使用 再生利用：資源物の再生利用 (金属、紙、ペットボトルなど)
	定性指標	<ul style="list-style-type: none"> 調達物品は、可能な限りレンタル等を活用 調達段階で戦略的に後利用先を確保し、再使用・再生利用を追求する 	

「7. 運営時廃棄物の再利用・再生利用率」 関連情報

区分		指標
大会 関連	ロンドン大会の目標	運営時廃棄物（調達物品のリユース・リサイクルも一部含むと思われる）の最低70%は再利用・リサイクル・堆肥化するよう徹底する
	ロンドン大会の実績	62%を達成した
	リオ大会の目標・実績	大会で出た固形廃棄物について、管理と責任ある処分を行う（数値目標なし） 実績は公表されている情報なし（精査中）
	東京大会運営計画 第1版での記載	分別回収した廃棄物については、CO2排出量の抑制をも念頭に置き適切な処理業者等に委託し再生利用を図る
関連するSDGs		12-5.2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再利用及び再生利用（recycling and reuse）により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
東京都施策		東京都資源循環・廃棄物処理計画：再生利用率目標 一廃27%・産廃35%(2020年度)
他の事例		愛・地球博：廃棄物のリサイクル率が56%。ただし、可燃ごみも再生処理（サーマルリサイクル・焼却灰の加工）されたものに加えると、リサイクル率は98%になる。パビリオンの展示品などは、寄贈やオークションなどでリユースした。

「7. 運営時廃棄物の再使用・再生利用」におけるTarget等の考え方

Target (目標案)	Indicator (指標案)		
運営時廃棄物の再使用・再生利用	定量指標	計算法	<ul style="list-style-type: none"> 運営時廃棄物の再使用・再生利用率 ※廃棄物として排出される時の重量ベースで計算する。 $\left[\frac{\text{再使用・再生利用された運営時廃棄物の重量}}{\text{運営時廃棄物の重量}} \right]$
		分母 (バウンダリ)	競技会場・練習会場・選手村・IBC/MPCなどから排出される廃棄物の量 (一廃・産廃両方含む) (組織委員会で把握できる範囲)
		分子	再使用・再生利用されるものの量 <ul style="list-style-type: none"> 再使用：リース・レンタル、買戻し特約 売却、贈与、再使用 など 修理・加工後に再使用 再生利用：資源物の再生利用 (金属、紙、ペットボトルなど)
	定性指標	<ul style="list-style-type: none"> 運営時廃棄物を可能な限り再使用・再生利用する。 大会に参加する観客等に廃棄物の分別への協力を呼びかけることで、より多くのステークホルダーの参加を促す。 	

「8. 食品廃棄物の再生利用率」 関連情報整理

区分		指標
大会 関連	ロンドン大会の目標	食品廃棄物単独での数値目標なし
	ロンドン大会の実績	食品廃棄物単独での実績は現時点では不明 (恐らくコンポスト化)
	リオ大会の目標・実績	公表されている情報なし (精査中)
	東京大会運営計画 第1版での記載	そもそも食品ロスの発生を抑制することが重要であるが、発生してしまった食品廃棄物については、資源化を目指す。
関連するSDGs		12-3.2030年までに、小売り・消費段階での1人あたりの食料の廃棄を半減し、製造・供給チェーン全体での食品ロスを削減する。 12-5.2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再使用及び再生利用 (recycling and reuse) により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
東京都施策		食品ロスの削減に向けた取組を促進するための様々な事業の実施
他の事例		愛・地球博：運営廃棄物の3Rを目標に掲げているが、食品廃棄物に特化した目標は存在しない。実績として、会場で発生した「生ゴミ」は、一部が会場内でメタン発酵処理、残りは全て会場外の処理施設で堆肥化された。 食品リサイクル法で、2019年度までに外食産業の食品リサイクル率を50%まで引き上げることが目標になっている。

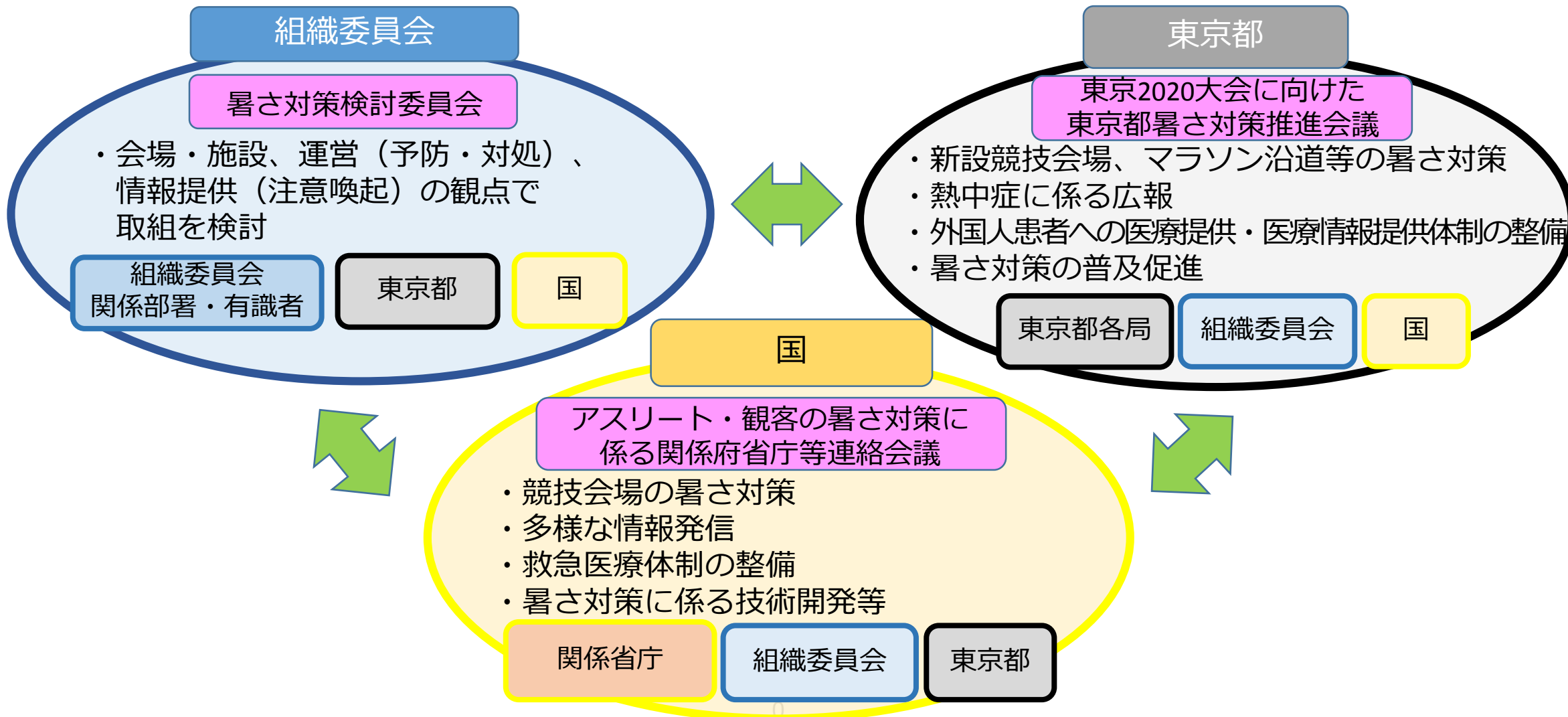
「8. 食品廃棄物の再生利用」におけるTarget等の考え方

Target (目標案)	Indicator (指標案)		
食品廃棄物の再生利用	定量指標	計算法	<ul style="list-style-type: none"> 食品廃棄物の再生利用率 ※廃棄物として排出される時の重量ベースで計算する。 $\left[\frac{\text{再生利用された食品廃棄物の重量}}{\text{食品廃棄物の重量}} \right]$
		分母 (バウンダリ)	組織委員会が直接、食を提供する場所（まずは選手村メインダイニング等を検討）から排出される食品廃棄物の量（調理くず・未提供食品・食べ残しの総計）
		分子	飼料化・堆肥化・バイオガス化される食品廃棄物の量
	定性指標	<ul style="list-style-type: none"> 食品廃棄物を可能な限り再生利用する。 運営時に、食品廃棄物をきちんと分別できるような運営を行う。 	

大会の暑さ対策

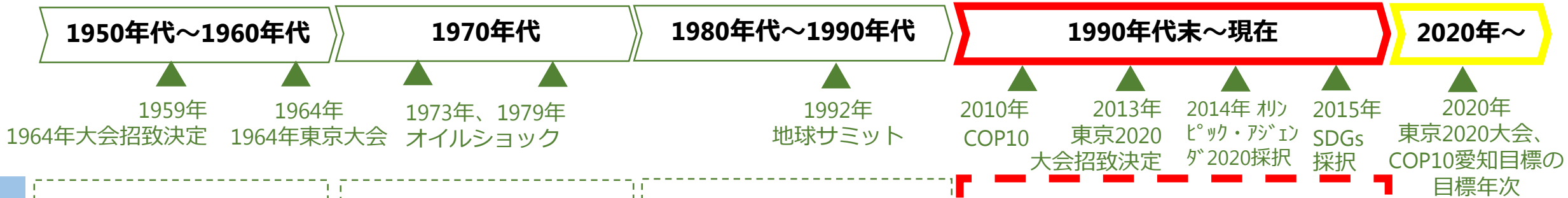
参考資料 3

大会の暑さ対策は様々な観点からの検討が必要であり、国、都、組織委員会が連携して取り組んでいる。



「大気・水・緑・生物多様性等」の概要

1 東京の環境改善・自然環境保全の変遷と世界の潮流



日本・東京の状況

1950年代～1960年代 :

- **経済復興と公害規制**
 - ・ 経済復興とともに公害が発生。東京都は「公害防止条例」を制定。
- **公害行政の拡充**
 - ・ 1964年東京大会を機に社会インフラの整備が急速に進展。都では、量的・質的に拡大した公害に対応するため、公害行政を体系的に整備する「公害防止条例」を制定。
 - ・ 廃棄物処理等に対応するため、東京港において大規模な埋立を実施。

1970年代 :

- **高度経済成長への対応**
 - ・ 都では公害規制に加えてインフラ整備等の観点も含めた「都民を公害から防衛する計画」を策定。
 - ・ 自然保護の分野では「自然保護条例」を制定。また「水質汚濁防止法」の制定を受けて総量規制の導入を準備。
 - ・ ごみの増加や廃棄物の多様化により、清掃工場や埋立処分場の確保が課題。中央防波堤内側の埋立を開始。

1980年代～1990年代 :

- **総合的な環境管理の推進**
 - ・ 二度のオイルショック後、経済安定期を迎えるが、環境問題は多様化・複雑化。都では「環境基本条例」「環境基本計画」を策定。
 - ・ 緑や野生動植物の減少等が進む中、自然環境の保全と創出に向けた「緑の倍増計画」を推進。
 - ・ 廃棄物の発生量を抑制するリサイクル行政に転換。中央防波堤外側の埋立を開始。

1990年代末～現在 :

- **先駆的取組の展開**
 - ・ 都は、「ディーゼルNO作戦」を実施し、自動車による大気汚染を大幅に改善。
 - ・ 生物多様性の危機を背景に、緑施策に生物多様性や在来種など、緑の質の視点を重視した「緑施策の新展開」を策定。
 - ・ 循環型社会に向け3Rの取組を推進。中央防波堤内側埋立地を美しい森にする「海の森」プロジェクトの実施。

自然と共生する社会の入口に立つ東京

2 大気・水・緑・生物多様性等の取組の全体像

- ・ **エリア**：競技会場等に加え、2つの会場エリア周辺を中心に面的な広がり を考慮
調達において、生産、製造、流通等における影響を考慮
- ・ **時間軸**：大会開催時に加え、大会を契機とした取組や大会後のレガシーを見据えた取組を考慮

ロンドン2012大会

オリンピックスタジアムと
オリンピックパーク

生物多様性等に配慮
したオリンピック
パークの整備により、
東ロンドンエリアの
再開発を実現

写真提供：東京都



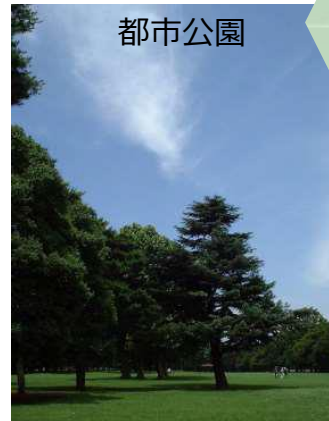
出典：London 2012 Debriefing LOCOG資料
「Sustainability, Legacy and Diversity& Inclusion」

有明アリーナ



写真提供：東京都

都市公園



写真提供：東京都

東京2020大会



会場及び会場周辺エリア
において大気・水・緑・
生物多様性等に配慮した
取組を実施

葛西海浜公園（海上公園）

出典：H29年5月12日
都知事記者会見スライド



出典：立候補ファイル
「ヘリテッジゾーン」

3 大目標（ゴール）

大会の各段階において、既存の施設や緑地・水辺等の空間を最大限活用しつつ、大気・水・土壌環境への負荷の最小化を図り、生態系ネットワークに配慮した緑化を推進する。これにより、都市の人間活動により豊かな自然を形成し、かつ快適さとレジリエンスを向上させる新たな都市のシステムの創出に寄与する。

➡ 自然共生社会の実現に貢献



大会開催



東京2020大会後の選手村（イメージ）
出典：東京都都市整備局ホームページ

大会後のレガシーも見据え、大会を通じて自然共生社会の実現に貢献

4 ゴールに向けた個別目標

目標

大気環境・水環境等の向上

- 自動車の使用等による大気汚染、建設工事や運営に伴う騒音等について、環境負荷の最小化を図る。
- 水資源の有効利用を最大限行うとともに、都市における水循環の機能を高めることで、東京湾等の水環境に与える影響の最小化を図る。

緑地の保全と創出・生物多様性

- 競技会場とその周辺において、多様な生物への配慮と豊かな緑地の創造、魅力ある景観の形成を図り、自然環境と共生する快適な都市環境を創出する。

調達における大気、水、緑、生物多様性等への配慮

- 大会の調達における環境負荷を低減し、社会における消費・生産方法の変革に寄与する。

5 主な施策の概要

① 水循環への配慮

● 雨水等の有効利用

- 東京都では「水の有効利用促進要綱」に基づき、雨水利用など水の有効利用と雨水浸透を推進

➡ 競技会場の整備においても、各施設の特性に応じて対策を実施

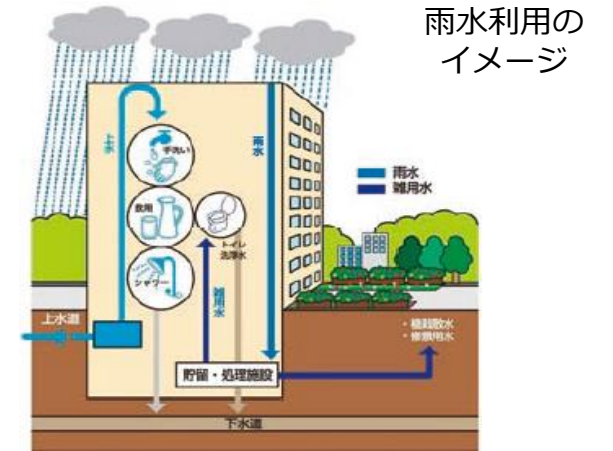
● 東京湾の水質改善

- 東京都は、降雨初期の特に汚れた下水の貯留施設や汚濁物を効率的に除去する高速ろ過施設を整備

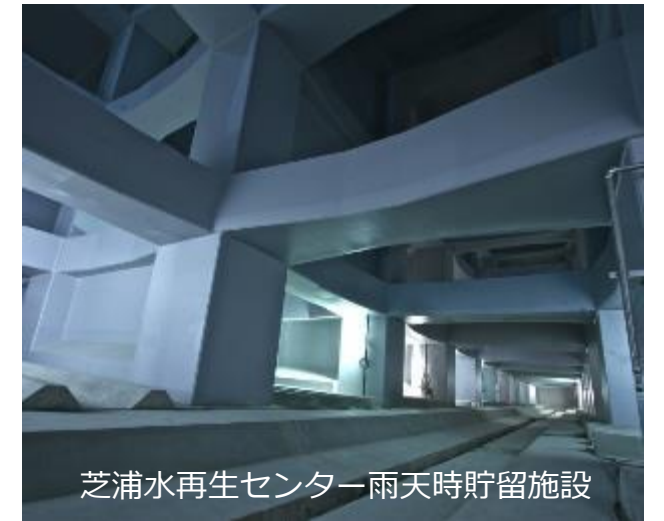
➡ 大会までに累計150万 m^3 の貯留施設等を整備

- 下水処理水の水質を一層改善するため、東京都では水再生センターにおいて赤潮の発生要因の一つであるちっ素、りんをより多く除去できる高度処理・準高度処理施設の導入を推進

➡ 2020年度までに累計430万 m^3 /日の処理能力まで増強



出典：東京都都市整備局
「貴重な水資源の有効利用のお願い」



出典：東京都「都民ファーストでつくる『新しい東京』～2020年に向けた実行プラン～」

5 主な施策の概要

② 生物多様性への配慮と魅力ある景観の創出

● エコロジカルネットワークの形成

東京都では、生きものの生息空間と在来種に配慮した緑化の誘導に向け、「植栽時における在来種選定ガイドライン」を作成し、生き物の生息域を拡大させるエコロジカルネットワークを推進

➡ 会場等における緑地の整備にあたっては、既存の公園等との連続性や、地域の歴史と自然等を踏まえ、気候や風土に適した植栽樹種等を選定

● 花と緑の景観形成

東京都では、人々を魅了する「美しい緑」に包まれた都市東京の実現を図るため、事業者による樹木や草花の植栽づくりを支援する「東京都花と緑による緑化推進事業」や、区市町村が地域や民間団体等と連携して草花等を植栽する「花の都プロジェクト」を実施

➡ 大会の開催に向けて、街を花で彩る取組を推進

「エコロジカルネットワークの仕組み」 図提供：東京都



《植栽前》
ナミアゲハの
生息する緑地



ナミアゲハの採食
の場所となるサンシヨ
ウなどの在来種を植栽



《植栽後》
ナミアゲハの
生息分布域が拡大



草花等による植栽

写真提供：東京都

5 主な施策の概要

③ 大会後を見据えた緑と水辺空間の整備

● 「海上公園ビジョン」

東京都は、生物多様性保全など自然環境面での取組を強化するとともに、新たな賑わいの創出や、臨海地域のブランド力、東京の都市力の向上のため、「賑わいと自然あふれる海辺を目指して—海上公園ビジョン—」を策定（取組の例）

- 東京港野鳥公園における干潟の拡張
- 葛西海浜公園のラムサール条約湿地の登録への取組
- 栈橋の整備、商業イベントの誘致
- 海辺の景観を楽しめるカフェなどの導入

➡ 選手村・競技会場と一体的な整備を図ることで、景観や利用者サービスの向上につなげ、臨海地域の水辺・緑地空間の価値を相乗的に向上

➡ 東京 2020 大会に向けて整備された施設や拡充された交通網を賑わい創出や地域の活性化などに生かし、臨海地域の更なる発展に寄与

干潟に飛来する渡り鳥
(葛西海浜公園)



出典：東京都
「海上公園ビジョン」

新たな賑わいの創出
(イメージ)



東京2020大会後の選手村（イメージ）
出典：東京都都市整備局ホームページ

5 主な施策の概要

(4) 調達における大気・水・緑・生物多様性等への配慮

- 「持続可能性に配慮した調達コード」における規定
 - ・ 調達物品等の製造・流通等において、各種環境法令に基づく大気・水質・土壌等の汚染防止、化学物質の適切な管理、廃棄物の適切な処理
 - ・ 調達物品等に関して、森林・海洋等から違法に採取・栽培された資源の使用禁止、資源の保全に配慮して採取・栽培された原材料の使用
 - ・ 調達物品等に関して、資源保存や再生産確保のための措置が講じられていない絶滅危惧種の動植物に由来する原材料の使用禁止
 - ・ 原材料の採取・栽培時を含む調達物品等の製造・流通等における、希少な動植物の保全、生物やその生息環境への影響の少ない方法による生産等による生物多様性や生態系への負荷の低減
 - ・ 森林や農村・漁村の多面的機能の発揮等を考慮した国産農林水産物の優先的な調達

大会における調達を通じて、サプライチェーンを含めた大気・水・緑・生物多様性等に配慮した資源の消費を実施



選手村ビレッジプラザ（イメージ）



国産食材を活用したりオ2016大会の職員食堂における食事

気候変動のゴールについて

【1】 前回WGの議論で出てきたキーワード案

1. Zero Carbon
2. Toward Zero Carbon
3. Zero Carbon ~Toward & Beyond~
 - 2.については、同題名の本が存在している
 - 3.についてはスポンサー企業様のキャッチフレーズに酷似している

【2】 新たな事務局提案の追加案

4. Zero Carbon ~toward and future~
5. Toward Zero Carbon, beyond and future
6. Zero Carbon ~toward 2020 and the future~

1.4.5.6をたたき台としてご議論頂きたい

<東京 2020 大会 大会ビジョン>

スポーツには、世界と未来を変える力がある。

1964 年の東京大会は日本を大きく変えた。2020 年の東京大会は、

「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、

「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、

「そして、未来につなげよう（未来への継承）」を 3 つの基本コンセプトとし、
史上最もイノベーティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

<東京 2020 大会の 3 つの基本コンセプト>

全員が自己ベスト

万全の準備と運営によって、安全・安心で、すべてのアスリートが最高のパフォーマンスを発揮し、自己ベストを記録できる大会を実現。

世界最高水準のテクノロジーを競技会場の整備や大会運営に活用。

ボランティアを含むすべての日本人が、世界中の人々を最高の「おもてなし」で歓迎。

多様性と調和

人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治、障がいの有無など、あらゆる面での違いを肯定し、自然に受け入れ、互いに認め合うことで社会は進歩。

東京 2020 大会を、世界中の人々が多様性と調和の重要性を改めて認識し、共生社会をはぐくむ契機となるような大会とする。

未来への継承

東京 1964 大会は、日本を大きく変え、世界を強く意識する契機になるとともに、高度経済成長期に入るきっかけとなった大会。

東京 2020 大会は、成熟国家となった日本が、今度は世界にポジティブな変革を促し、それらをレガシーとして未来へ継承していく。



ISO 20121規格に準拠したマネジメントシステムの導入について

本日の報告事項

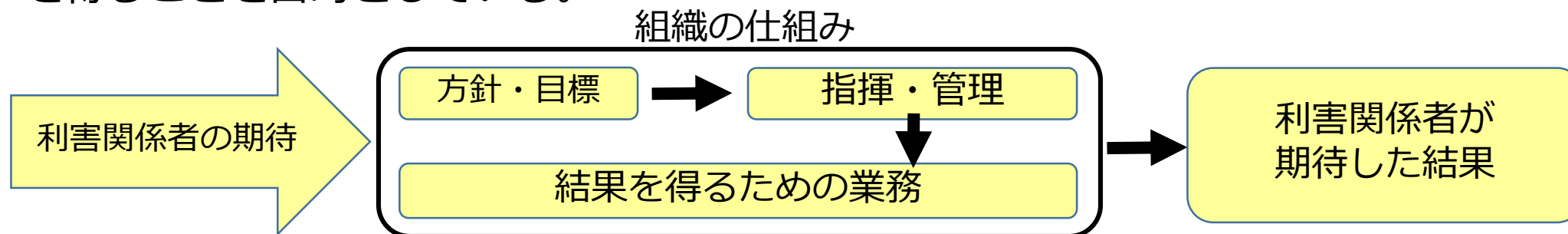
1. ISOマネジメントシステムの概要
2. ISO 20121規格の概要
3. ISO 20121規格の特徴
4. ISO 20121規格の構成
5. ISO 20121規格の骨子
6. 今後の取組
7. ISO 20121規格に基づく方針の策定
8. 今後のスケジュール

【参考】 ISO 20121規格の要求事項（5.2 方針）

1 ISOマネジメントシステムの概要

マネジメントシステムとは、目的を達成するために、方針及び目標を定め、組織を適切に指揮・管理するための仕組みを指す。

これにより、利害関係者が期待する結果（例：高品質の製品や環境負荷の少ないサービス）を得ることを目的としている。



組織を管理する仕組みについて、国際的な基準としてISO(※)が制定した規格が、ISOマネジメントシステムである。一般的な例として以下のISO規格が挙げられる。

(例) 品質マネジメントシステム (ISO9001)

顧客に提供する製品・サービスの品質を継続的に向上させていくことを目的とした規格

環境マネジメントシステム (ISO14001)

環境リスクの低減および環境への貢献を目指す規格

※ISO…International Organization for Standardization (国際標準化機構) の略称。様々な分野の国際的な規格の策定や、国際取引の円滑化等を実施。1947年設立。

2 ISO 20121規格の概要

- ・ 持続可能性に配慮したイベントを運営する組織の仕組みを定めた国際基準
- ・ ロンドン大会に向けて発行された英国規格BS8901を基に2012年に発行

ロンドン大会以降の認証取得状況

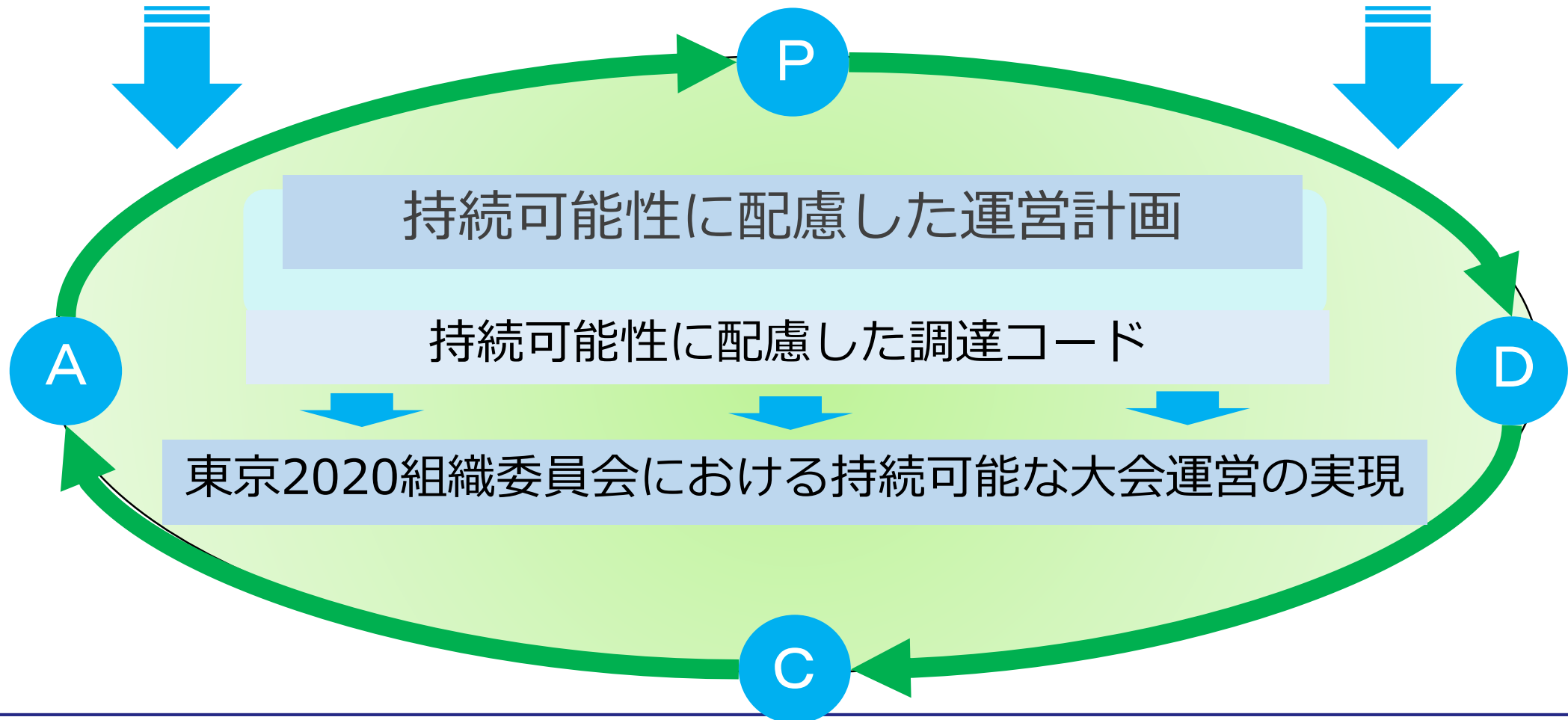
- ・ 2012年ロンドン大会（2012年6月認証取得）
- ・ 2016年リオ大会（2016年1月認証取得）
- ・ 2018年平昌大会（2016年9月認証取得）
- ・ 2024年パリ大会招致委員会（2017年3月認証取得）



東京大会においても、持続可能な大会運営を確実に実施するため、組織委員会においてISO20121の枠組を導入し、マネジメントシステムを運用

2 ISO 20121規格の概要

ISO20121規格の要求事項を踏まえ、PDCAサイクルにより必要な改善を実施



3 規格の特徴

リーダーシップの強化

- ▶ トップマネジメントによるマネジメントの成果の達成への貢献等を規定

ステークホルダーとの連携強化

- ▶ ステークホルダーのニーズ及び期待をマネジメントに反映

ライフサイクルの考慮

- ▶ 課題の特定や組織の活動・サービス等について、ライフサイクル全体を考慮

サプライチェーン管理の強化

- ▶ サプライチェーン全体を考慮し、外部委託するプロセスも含めてマネジメントを実施

成果の重視

- ▶ 取組の監視・測定を行い、成果についての分析・評価を実施

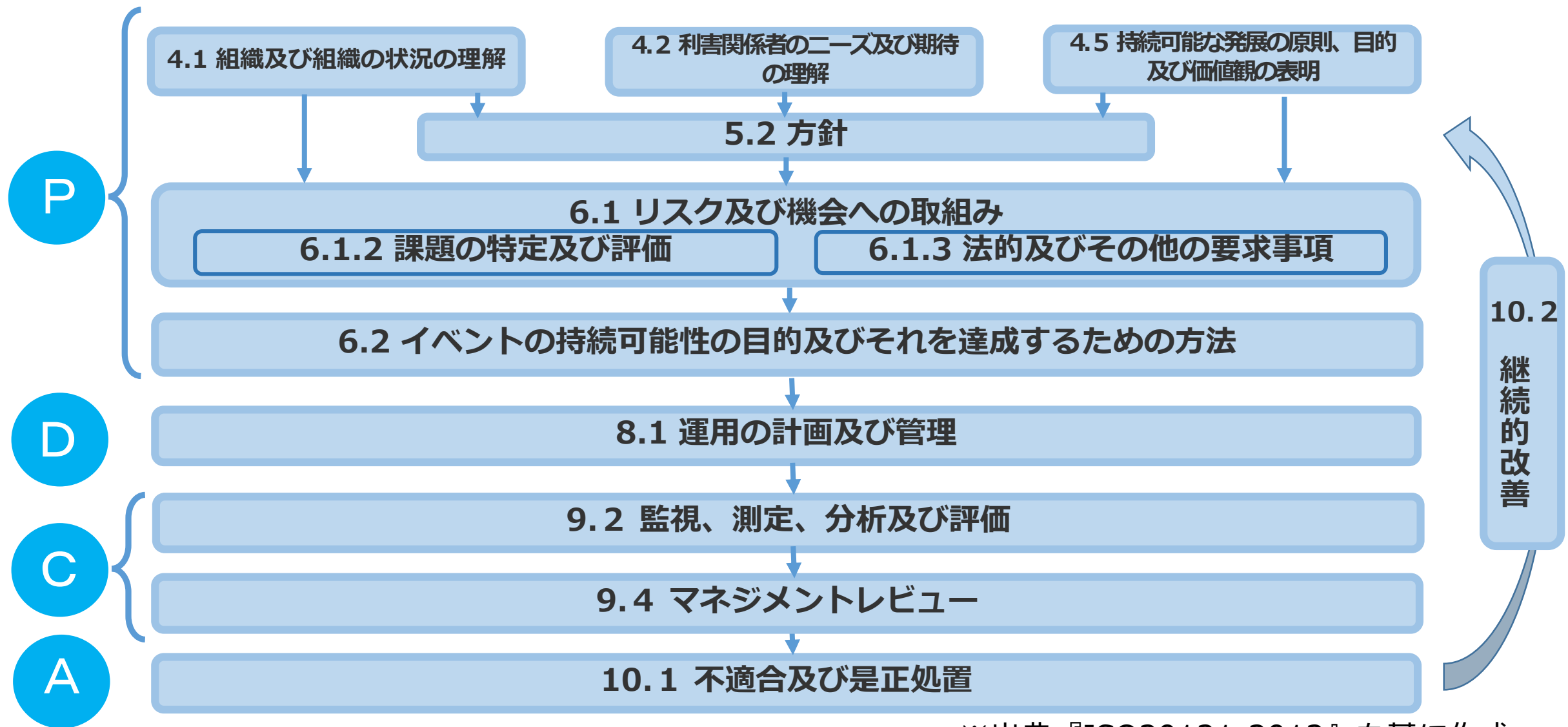
4 ISO 20121規格の構成

項番・内容
1 適用範囲
2 引用規格
3 用語及び定義
4 組織の状況
4.1 組織及び組織の状況の理解
4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解
4.3 イベントの持続可能性に関するマネジメントシステムの適用範囲の決定
4.4 イベントの持続可能性に関するマネジメントシステム
4.5 持続可能な発展の原則、目的及び価値観の表明
5 リーダーシップ
5.1 リーダーシップ及びコミットメント
5.2 方針
5.3 組織の役割、責任及び権限
6 計画
6.1 リスク及び機会への取組み
6.2 イベントの持続可能性の目的及びそれを達成するための方法
7 支援
7.1 資源
7.2 力量
7.3 自覚
7.4 コミュニケーション
7.5 文書化された情報

項番・内容
8 運用
8.1 運用の計画及び管理
8.2 修正された活動、製品及びサービスの扱い
8.3 サプライチェーンマネジメント
9 パフォーマンス評価
9.1 持続可能な発展の統治原則に対するパフォーマンス
9.2 監視、測定、分析及び評価
9.3 内部監査
9.4 マネジメントレビュー
10 改善
10.1 不適合及び是正処置
10.2 継続的改善

※出典『ISO20121:2012』を基に作成

5 ISO 20121規格の骨子



※出典『ISO20121:2012』を基に作成

6 今後の取組

ISO 20121規格に沿ったマネジメントシステムの構築

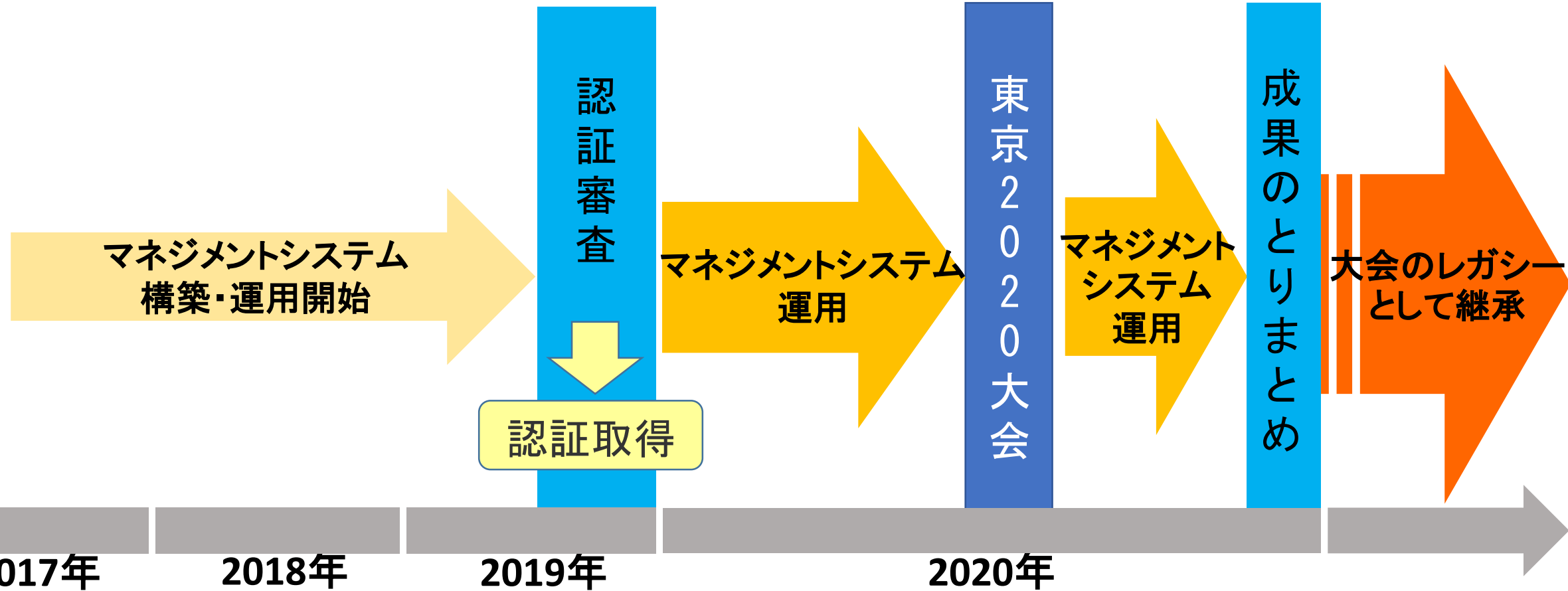
- ISO 20121規格に基づく方針の策定
- イベントの持続可能性の目的及びそれを達成するための方法の決定
⇒ **「持続可能性に配慮した運営計画第二版」**において検討
- マネジメントシステムの運用管理方法の決定
- 監視・測定等の方法、内部監査や不適合の是正措置の手順等の決定
など

7 ISO 20121規格に基づく方針の策定

方針策定の方向性

- 大会開催基本計画、アクション&レガシープラン、持続可能性に配慮した運営計画第二版等の検討状況を踏まえて策定
- ISO 20121規格の要求事項に沿って策定
（【参考】 ISO 20121規格の要求事項（5.2 方針）参照）
- 持続可能性に配慮した運営計画第二版の策定に合わせて検討
- 広く一般の方が入手できるようHP等で公表し、大会における持続可能性の理念を分かりやすく伝えるツールとして活用

8 今後のスケジュール



【参考】 ISO20121規格の要求事項（5.2 方針）

5.2.1 持続可能な発展の方針の確立

※出典『ISO20121:2012』を基に作成

トップマネジメントは、次の事項を満たす持続可能な発展の方針を確立すること。

- a) 組織の目的に対して適切である
- b) 持続可能な発展の目的を設定するための枠組みを提供する
- c) 適用される要求事項を満たすことへのコミットメントを含む
- d) ESMSの継続的改善へのコミットメントを含む

持続可能な発展の方針は、次の事項を満たすこと。

- 文書化された情報として入手できる
- 組織内に伝達される
- 必要に応じて、利害関係者が入手できる
- イベントの持続可能性に関するマネジメントの領域におけるリーダーシップに対するコミットメントを含める
- 表明された目的及び価値観との関連性
- 特定された適用範囲内で、持続可能な発展の統治原則への組織コミットメントを含む

【参考】 ISO20121規格の要求事項（5.2 方針）

5.2.2 方針情報の文書化

※出典『ISO20121:2012』を基に作成

組織は、方針の情報を文書化して維持すること。

持続可能な発展の方針は、イベントに関連する活動、製品及びサービスの全てに基礎となる考えを示すこと。

持続可能な発展の方針は、次の事項を考慮すること。

- a) サプライチェーン組織（製品、施設・設備、サービス提供者）
- b) イベントマネジメントサイクル、構想、計画から実施、レビュー及びイベント後の活動に至るまでを含む
- c) 利害関係者との関与の結果
- d) エンドユーザーのニーズ
- e) レガシーの課題